

## 船舶事故調査報告書

平成25年8月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年6月2日 22時30分ごろ
発生場所	鹿児島県西之表市種子島西方沖 西之表市所在の種子住吉灯台から真方位352° 520m付近 (概位 北緯30° 40.4′ 東経130° 56.4′)
事故調査の経過	平成24年7月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 幸福丸、13トン K02-5388（漁船登録番号）、個人所有 16.43m (Lr) × 3.91m × 1.77m、FRP ディーゼル機関、478.08kW、昭和52年10月27日
乗組員等に関する情報	船長 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成6年10月11日 免許証交付日 平成21年9月14日 (平成26年10月10日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	船底外板に亀裂
事故の経過	本船は、船長ほか1人が乗り組み、鹿児島県奄美大島東方沖の漁場でまぐろ延縄漁の操業を行っていたところ、船長は、台風の予想進路が漁場に向かっていることを知り、その影響を避けるため、西之表市西之表港で避泊することとし、操業を中断して同漁場から同港に向けた。 船長は、1人で当直に就き、種子島南西部の島間崎を通過したのち、種子島中西部の住吉岬西方に針路を定め、自動操舵として椅子に腰を掛け、椅子の正面にあるレーダーを見ながら、種子島西方沖を約7ノットの対地速力で北東進したが、雨が降っているため、付近に漁船などの船舶はほとんどいないだろうと思い、読書を始めた。 船長は、読書に集中し、ふとレーダー画面を見たところ、陸岸が近いと感じ、針路を左に向けて陸岸から離れようとしたが、平成24年6月2日22時30分ごろ、本船が、住吉岬西方の浅所に乗り揚げ

	<p>た。</p> <p>船長は、周囲を確認したが、暗くて状況がよく分からず、主機を後進としたところ、乗り揚げた浅所から離脱したので、船体及び機関を点検し、異常が見受けられなかったことから、西之表港に向けて航行を再開していたが、急に発電機が止まった。</p> <p>船長は、機関室を確認したところ、主機の台座付近にまで達している浸水を認め、この状況では西之表港まで航行することはできないと思い、付近の砂浜に本船を乗り揚げた。</p> <p>本船は、後日、海上クレーンによって台船に移され、西之表港に移送されたが、その後、廃船処理された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 霧雨、風向 東、風力 4、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の末期、潮高 約0.8m、波高 約1m</p> <p>西之表市には、6月1日21時22分に強風注意報及び波浪注意報が発表され、本事故発生当時は継続中であった。</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約1.3m、船尾約1.9mであった。</p> <p>船長は、本事故前に何度も住吉岬西方沖を航行したことがあった。</p> <p>船長は、5月29日15時00分ごろ宮崎県延岡市島野浦港を出港するときには、気象の情報を入手していた。</p> <p>船長は、台風の情報を入手していれば、出港はしなかった。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、種子島西方沖を北東進中、船長が、雨が降っているのに、付近に漁船などの船舶はほとんどいないだろうと思い、読書を始め、読書に意識を集中していたことから、本船が住吉岬西方の浅所に向かって航行していることに気付かず、本船が同浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、夜間、本船が、種子島西方沖を北東進中、船長が、読書に意識を集中していたため、本船が住吉岬西方の浅所に向かって航行していることに気付かず、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・航海当直中は、見張りに専念すること。</li> </ul>